

人前で堂々と話せたのは部活動で鍛えた度胸があったから

A.Y.

富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 進学

ひたちなか市立 三反田小学校 卒業

高校3年生の間は、授業時間の多くを復習に充てるようになっていたので、入試に関して万全の体制を整えられます。特に共通テスト直前にもなると、各々の必要な学習が異なってくるので授業という形をとらず、各々で必要と思った復習をさせてくれる先生も多くいました。このように受験前の総復習の時間を十分にとる事ができるのが、やはり一貫教育のメリットの一つでしょう。

6年間の思い出として大きいのはやはり部活動です。私は吹奏楽部で6年間活動してきましたが、楽器の練度も然ることながら人間としての経験が積めたと思います。本校の吹奏楽部は吹奏楽コンクールの高校A部門で毎年金賞を受賞しているような、決して楽な部活ではありませんが、普段から空気が緊張しているわけではなく、むしろ和気あいあいと形容する方がふさわしい、非常に居心地の良い場所でした。本番が毎月、多ければ毎週のようにあるので、観客の前で落ち着いていられるような度胸がついたのも大きな収穫でした。私は総合型選抜で大学に合格しましたが、5対1で行われた面接・プレゼンや4人組のグループディスカッションで堂々と話せたのは吹奏楽部で鍛えた舞台度胸とコミュニケーション力があったからだと思います。

色々な意味で先生のクセが強く、各々の趣味や性格に合った先生が見つけれられるところが本校の特徴です。先生の趣味や性格の影響するところは意外に大きく、共通の話題や例え話ができるとイメージの共有がスムーズにできますし、授業に関係ない話なども挟むことによって、大人に対する漠然とした怖さなども払拭できるかと思います。異動がほぼ無いので、せっかく仲良くなった先生が居なくなることもほとんどなく、6年間ずっと同じ先生に質問しに行くことも不可能ではありません。

私は物心ついたときから電車が好きで、鉄道関係の仕事をしたと思っていました。私はいわゆる土木系の学部に進学しますが、鉄道が社会で担える役割や、現代社会の問題、最近なら過疎化と老朽化に伴う各種インフラ維持問題や、自動車運転手の労働力が不足する2024年問題（学部卒業が間に合いませんが）などに関してどのように鉄道を生かせるのかを研究していこうと思っています。将来的には、役所やローカル鉄道の職員などとして、インフラ運用・維持の現場で、身につけた知見を発揮しようと考えています。